日本橋から秋葉原の見どころ散策

（『熈代勝覧』（きだいしょうらん）の世界から）

『**熈代勝覧**』は、文化２年（1805 年）の江戸日本橋から今川橋までの日本通りを東側から俯瞰して描いた絵巻。作者不明。縦 43.7cm、横 1232.2cm の長大な絵巻で、文化文政期の町人文化を知る上で貴重な史料として注目された。1999 年にドイツで発見され、原画はベルリン国立東洋美術館に所蔵されている。

今日は、ここに描かれている主な場所の現在を訪ね、秋葉原まで足を延ばす散歩です。

◆予定コース　（約２時間３０分）　集合場所：東京駅八重洲北口改札　　午後２時集合

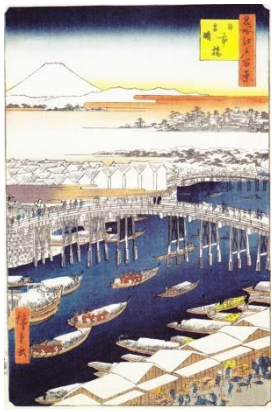
八重洲北口　⇒　北町奉行所跡　⇒　一石橋跡　⇒　日本橋、魚河岸　⇒　熈代勝覧　復元絵巻　⇒　駿河町三井越後屋　⇒　木屋　⇒　十軒店の雛市　⇒　長崎屋跡　⇒　時の鐘跡　⇒　今川橋跡　⇒　筋違八ツ小路跡　⇒　連雀町　⇒　藪蕎麦辺り　⇒　万世橋駅跡　⇒　万世橋　⇒　神田「鳥貴族」

日本橋　　富士山　江戸城　武家の一行　中央上部に「一石橋」が見える

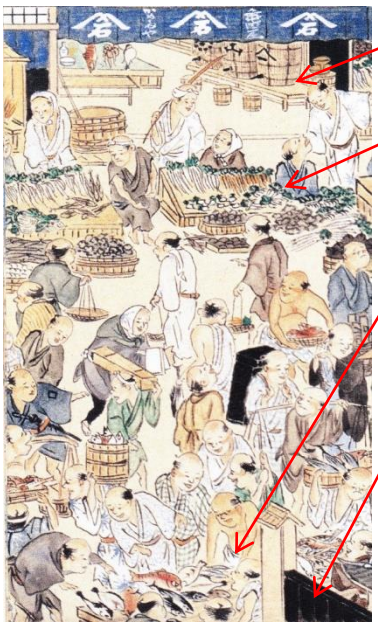
日本橋が初めて架けられたのは徳川家康が幕府を開いた慶長８年（1603 年）と伝えられています。幕府は東海道を始めとする**五街道**の起点を日本橋とし、重要な水路であった日本橋川と交差する点として江戸経済の中心となっていました。橋詰には高札場があり、魚河岸であったことでも有名です。

現在の日本橋は東京市により、石造二連アーチの道路橋として明治 44 年に完成しました。橋銘は第十五代将軍 徳川慶喜の筆によるもので、青銅の照明灯装飾品の麒麟は東京市の繁栄を、獅子は守護を表しています。

橋の中央にある日本国道路元標は、昭和４２年に都電の廃止に伴い、道路整備が行われたのを契機に、昭和４７年に柱からプレートに変更されました。プレートの文字は、当時の総理大臣 佐藤栄作の筆によるものです。



名所江戸百景の日本橋（1858）



酒問屋

青物土物の立ち売り

魚の立ち売り

町木戸

日本橋北橋詰辺り

常盤橋門　（江戸城三十六見附の一つ）

常盤橋、常盤橋門跡

江戸城大手門外郭の正面に当たり、江戸初期には浅草門又は大手口と云われ、奥州街道に通じる重要な場所。家光の時代に町年寄奈良屋市右衛門が命ぜられ、平安時代後期の和歌集の中の「色かえぬ松によそへて東路の常盤（常磐）のはしにかかる藤波」から名付けた。現在の石橋は明治１０年に架設された。

門は明治維新で取り除かれ、関東大震災でも橋が被害を受け、一帯は昭和８年に常盤橋公園となって現在に至る。

八見橋（一石橋）

この橋の北の金座に後藤庄之助が、南に幕府御用達の呉服商後藤縫之助が住んでいて、後藤（五斗）と後藤（五斗）を足すと一石になったことから、江戸っ子は洒落て「一石橋」と名付けた。この橋に立つと自身も含めて八つの橋を見渡せたので、俗称「八ツ見の橋」とも呼ばれた。

外濠の常盤橋・呉服橋・鍛冶橋、道三濠の銭瓶橋・道三橋、日本橋川に架かる一石橋・日本橋・江戸橋の八つが望めた。

安政４年（1857）一石橋たもとに町人たちが設置した「迷い子しらせ石標」が今も保存されている。

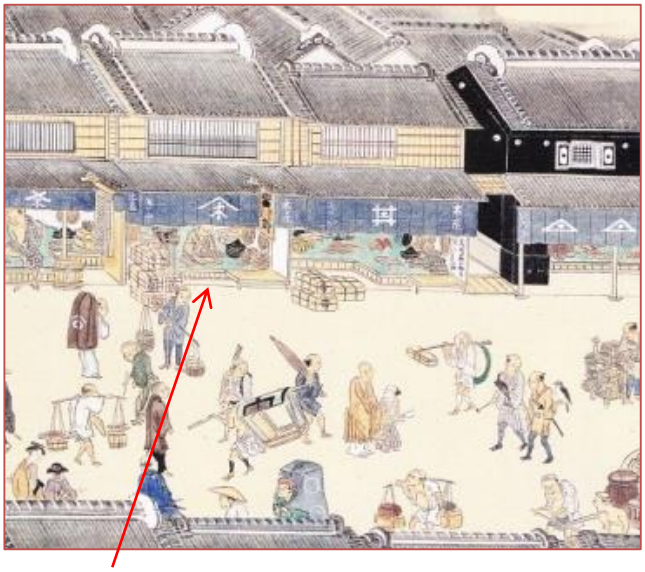
（詳細は別紙参照）

「熈代勝覧」絵巻　（地下鉄三越前駅のコンコースにある模写絵を見学）

「熈（かがや）ける御代（みよ）の勝れたる大江戸の景観」という意味で、本絵巻には「熈代勝覧　天」と記載されており、「天地人」の全三巻の可能性がありますが、他の巻は現在所在不明です。
題字は当時著名な書家であった佐野東州が描いたもので、絵巻には沿道にある８８軒の問屋や店に加え、行き交う 1,671 人、犬 20 匹、馬 13 頭、牛４頭、猿１匹、鷹２羽ならびに屋号や商標が書かれた暖簾、看板、旗などが克明に描かれている。

なお、1806 年の「丙虎（ひのえとら）の大火」で建物の多くが焼失したといわれており、その直前の貴重な記録といえます。

三井越後屋（現「三越」）
「現金掛け値なし」の店先売りで有名な天下一の呉服商



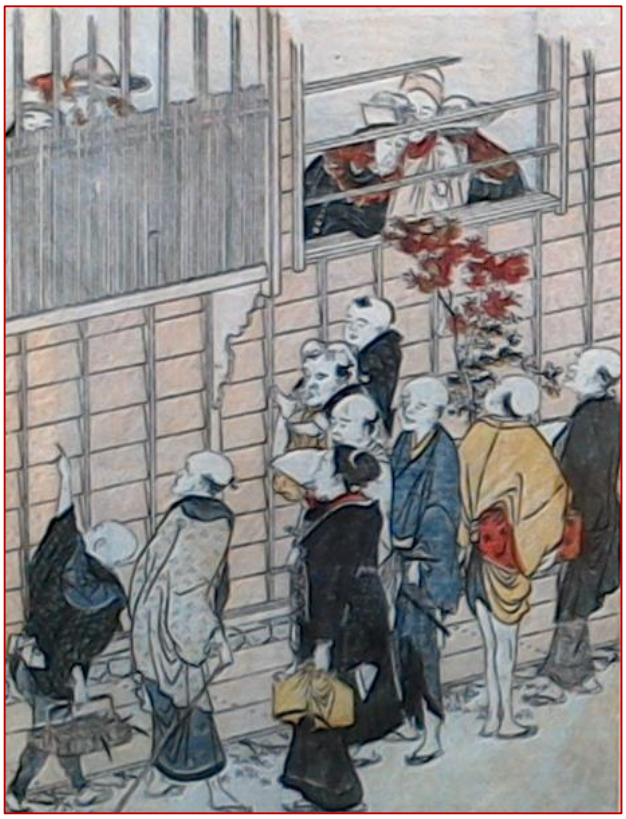
木屋（小道具問屋で現在も営業店舗あり）

十軒店

五代将軍徳川綱吉が京都から人形師を招いたことに始まる。

三月の桃の節句には、内裏雛や禿（かむろ）人形を、五月の端午の節句には、甲（かぶと）人形や鯉幟を売る仮店が十軒あったことから、十軒店の名があるといわれている。

寛政（1789 年～1801 年）期には 41 軒を数えるようになったといわれ、その賑やかさや雑踏ぶりが偲ばれます。この十軒店の名は、町名として大正時代まで残っていました。



長崎屋跡　江戸で唯一の外国人宿（新日本橋駅傍）

オランダや中国からもたらされる舶来品を扱っていた薬種（貿易）問屋。オランダ商館長が江戸に参府する際に使われていた外国人専用の定宿としても有名で、店先には西洋人を一目見ようと江戸中から人々が押し寄せたという。

左図は、町人が物珍しそうにのぞき込む様子を北斎が描いたもの。北斎自身カピタンの注文で数十枚の浮世絵を書いている。

随行員には、ケンペル、ツンベルク、シーボルトなどの医師がいたため、青木昆陽、杉田玄白、平賀源内などの蘭学者や医者などが訪問し、外国の先進的知識を吸収していた。

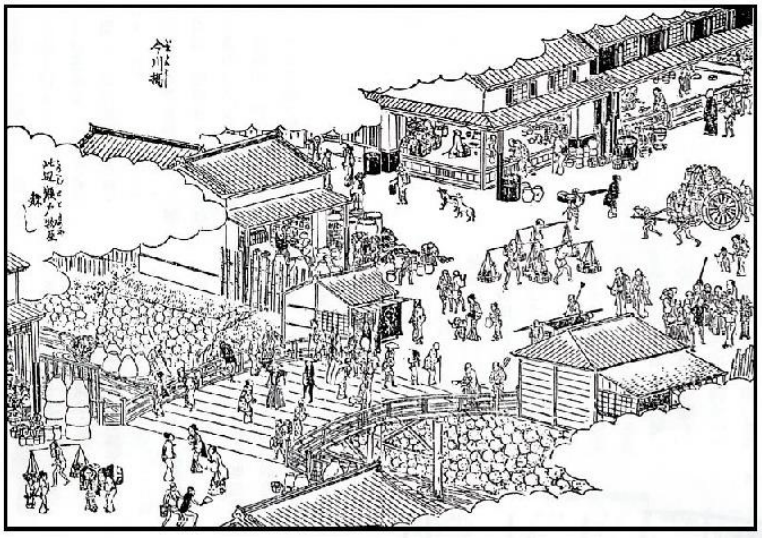
「江戸の阿蘭陀宿・長崎屋」参照
http://www.yushodo.co.jp/pinus/70/nagasaki/

石町時の鐘跡

時の鐘で最も古いのが「石町の鐘」である。この鐘は、将軍秀忠の時、江戸城内の西の丸で撞いていた。鐘楼堂が御座の近くでは差し障りがあるため、日本橋石町に鐘楼堂を作ってそこへ移した。その管理費は町人から１ヶ月永楽銭１文を集め経常費にあて、修理その他大金が必要な時は幕府から公金を受け取っていたといわれる。

鐘役は最初から代々辻源七が当たったので、辻の鐘とも呼ばれた。前出の長崎屋が近く、カピタン一行もまさに頭上で聞いていたので、川柳に「石町の鐘は紅毛（オランダ）まで聞こえ」と詠まれて親しまれていた。現在は、小伝馬町の十思公園に移されている。

十思公園の時の鐘



今川橋跡

神田八丁堀に架かっていた橋。本白銀町より元乗物町へ渡る橋で、橋詰左右に瀬戸屋が多かった。中山道は日本橋から今川橋跡、神田駅近くを通って筋違見附を通った。

神田八丁堀

明歴の大火(1657）の後、防火のため八丁(109.1×8)約870mの土手を築いた。天和３年(1683)頃になると、

土手のそばに空地が出来、元禄４年(1691)頃町人たちが自らの費用を分担して掘り割りを開削しました。当初「神田掘」と呼ばれ、後に「龍閑川」と名付けられたのは、龍閑川の西端にあった幕府坊主の「井上龍閑」の家があったことに由来する。現在は、細い路地に名残を留め、千代田区と中央区の区境となっている。

万世橋駅跡

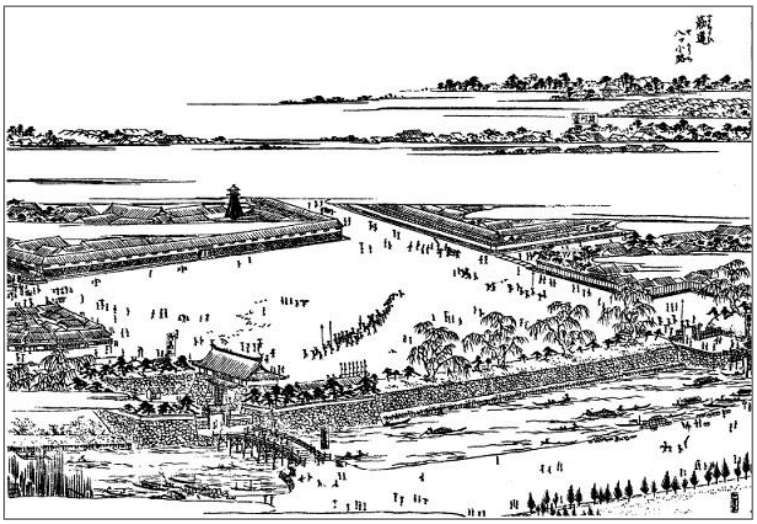
1912 年（明治 45 年） 万世橋駅開業
1919 年（大正８年）万世橋～東京間開通
1923 年（大正 12 年）関東大震災で駅舎焼失
1924 年（大正 13 年）仮駅舎で再開
1936 年（昭和 11 年）鉄道博物館が移転、万
　　４月 26 日　世橋駅と併設
〃　　11 月　　駅舎解体縮小
1943 年（昭和 18 年）営業休止
2013 年（平成 25 年）「マーチ エキュート神田万世橋」として旧階段やプラットホームデッキが商業施設とともに公開された。

万世橋

江戸時代にこの場所に橋は無く、明治 17 年（1884）に上流の昌平橋が流失したため代用として橋が架けられました。昌平橋が復旧すると、この橋は万世橋と言われるようになり、昭和５年に架け替えられました。

筋違ハツ小路

神田川の**筋違橋**は、中山道に通じており、行き交う人馬も多く、門の内側は**ハツ小路**と呼ばれた。連尺（背負子）を作る職人が多く住んでいたことから、「連尺町」の名が付けられ、やがて「連雀町」となった。明歴 3 年〈1657〉振袖火事の後、連雀町は延焼防止の**火除地**として土地を召上げられ、筋違橋の南方へ移転させられた。その際、25 世帯は、現在の三鷹市上連雀、下連雀へ移住した。



明治 45 年（1912）、甲武鉄道万世橋駅が江戸時代のハツ小路跡に開業、駅前広場には軍神広瀬中佐の銅像がたち、市電の発着地として、東京でも屈指の交通の要衝として栄えた。

ハツ小路と言われたのは筋違、昌平橋、駿河台、小川町、連雀町、日本橋通り、小柳町（須田町）に通じていたからで、江戸の中では賑やかな場所でした。神田淡路町に小山弓具本店を構える小山家は徳川家康の江戸開府に５石二人扶持の下級武士として三河より移住（十六代前）。弓で暮らしを立てるようになったのは、八代前、弓の調整や村取りが

好きで弓師になったのが始まりです。武家屋敷への出入りはありましたが、江戸時代は町のあちこちに遊技場という半弓矢場が在り、また賭け弓が流行るなどで繁盛したようです。その頃は二、三軒の矢場をお客に持てば一家は楽に暮らせたそうです。

まつや　　ぼたん　　いせ源　　竹むら　　やぶそば

【千代田区景観まちづくり重要物件】

戦災から焼け残り、昔ながらの情緒を漂わせています。

まつや　創業：明治 17 年（1884）

つけ汁は下町のなごりとも云える少し濃い目、全部「手打ち」で池波正太郎も通った。卵焼きは予約が必要。

ぼたん　竣工：昭和４年〈1929〉

明治 30 年頃の創業、“鳥のすきやき”専門の老舗

いせ源　竣工：昭和７年（1937）

天保元年（1830）の創業。“あんこう鍋”の専門店で創業時から神田連雀町にあり、関東大震災で家屋が全焼。その後、現在の建物で営業中。入母屋造りと２階の欄干に施された、菱形模様の彫りが特徴。木製の看板は建築当時から使用（平成８年補修済み）しているものです。

たけむら　昭和５年（1930）竣工・創業

本格的な「しるこ屋」を目指した。**池波正太郎**も通ったことで知られる甘味処の老舗。（あわぜんざい／あんみつ）

やぶそば　創業：明治 13 年（1880）

幕末の名舗『団子坂蔦谷』の淡路町店を堀田七兵衛が譲り受けて営業を始め、明治後期に団子坂本店が廃業。藪蕎麦本店の看板を受け継ぎ今日に至る。

松栄亭　創業：明治４０年（1907）

100 年前に初代が考案した洋風カキアゲは夏目漱石も好物だったという看板メニュー。昔から変わらない懐かしい味の洋食が楽しめる。

（ハンバーグ：650 円　ロールキャベツ：800 円
洋風カキアゲ：850 円）